
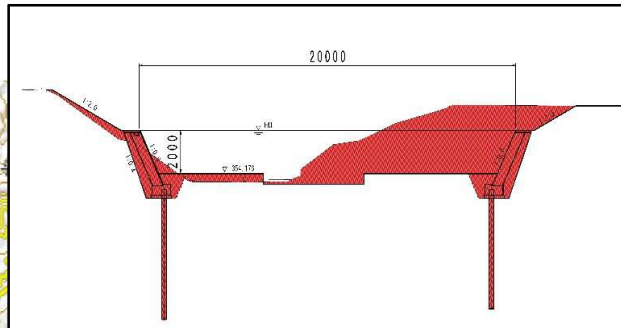




(様式2)新規評価シート

建設部 河川課

事業名	河川		路河川名等	(一)岡田川
事業毎の通番	3	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)
事業目的	岡田川は、長野市南部の篠ノ井市街地を流下し千曲川に合流する河川で、沿川では、近年土地区画整理事業も行われ、都市化が急速に進んでいる。 本河川では、既往最大の被害となった昭和56年8月の台風15号をはじめ、昭和58年9月の台風10号などによる浸水被害を受けている。 このため、土地区画整理事業と連携し、河道を拡幅し流下能力を向上させ、流域の治水安全度を確保するため、平成7年度から河川改修事業を実施しており、平成29年度末までに千曲川合流点から1,800mの河川改修が完成する予定である。 平成30年度から残区間2,450mの河川改修を引き続き実施し、合わせて千曲川合流付近における岡田川樋門閉鎖による内水被害解消のため、排水機場の整備を行う。			
事業概要	しあわせ信州創造プラン2.0 における位置付け	4-1県土の強靱化 (災害に強いインフラ整備)	事業実施の 根拠法令等	河川法
関連する事業、計画等	○ 信濃川水系河川整備基本方針(平成20年6月 国土交通省北陸地方整備局) ○ 信濃川水系河川整備計画(平成26年1月 国土交通省北陸地方整備局) ○ 信濃川水系長野圏域河川整備計画(平成29年6月 長野県)			
保全対象・範囲 受益対象・範囲	○ 想定氾濫区域内の人家戸数 : 505戸 ○ 想定氾濫区域内の農地面積 : 23ha ○ 想定氾濫区域内の公共施設 : 主要道路、生活道路、鉄道、教育施設、避難所施設			
着手年度	平成30年度	事業期間	19年間	
完成年度(見込み)	平成48年度	費用対効果	5.5	
全体事業内容 (主な工種)	河道拡幅工 L=2,450m 排水機場 1箇所	事業費(千円)	4,000,000	2,000,000
			国庫	1,800,000
			その他	200,000
			県債	
			一般財源	
事業効果	直接的効果 (定量的・定性的)	災害防除		
	間接的効果 (定量的・定性的)	地域の活性化		
必要性	○ 想定氾濫区域内の人家戸数 : 505戸 ○ 想定氾濫区域内の公共施設 : 19施設 ● 主要道路(国道18号)、● 生活道路((主)長野上田線、(主)長野信州新線、(主)清野篠ノ井(停)線、(主)戸隠篠ノ井線、(一)犀口下居返線)、● 鉄道(しなの鉄道)、● 教育施設(ひよし保育園、篠ノ井西中学校、長野俊英高校)、● 避難所施設(篠ノ井西中学校体育館、長野俊英高校体育館)、● その他施設(みこと川公園、通明遊園地、西浦遊園地、東松島遊園地、東松島遊園地、細池遊園地、会南団地遊園地) ○ 想定氾濫区域内の農地面積 : 23ha ○ 要配慮者利用施設の有無 : ● 重要施設(介護老人保健施設桜ホーム)、● 一般施設(ひよし保育園)			評価
				A
重要性	○ 過去の浸水履歴 : H18.7.19日(床下浸水 23戸)、H22.7.16(床下浸水 99戸) ○ 交通遮断による地域経済への影響 : 国道、鉄道 ○ 重要水防区域 : 位置づけあり			評価
				A
効率性	○ 費用対効果(B/C) : B/C 5.5 ○ 事業期間 : 19年間 ○ 工法等の比較検討 : なし			評価
				B
緊急性	○ 近年の自然災害 : なし ○ 近年の水防回数 : なし ○ 現況流下能力 : 最小43% ○ 河道構造 : 堀込(土羽護岸)			評価
				C
計画熟度	○ 事業情報の共有 : 信濃川水系河川整備計画の策定に係る公聴会の開催(H28.12.21) 河川改修計画に係る説明会を実施(H25.11.14他2回) ○ 地域の取り組み : 地元から強い要望があり、積極的な取り組みがある(岡田川改修既成同盟会) ○ 地域への合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○ 住民との協働 : 住民参加による草刈が実施されている			評価
				A
所管課意見	当該河川の保全対象には、多くの家屋、公共施設等があるが、昭和56年をはじめ、度々浸水被害を受けていることから、河川改修及排水機場整備を早急に進めなければならない。		採択状況	総合評価
			○	A
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。			

事業概要説明図表	【位置図(岡田川)】 	【標準断面図(岡田川)】 		
				
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	昔の岡田川は、著しい天井川で、信里から篠ノ井駅へは、瀬原田のトンネルを通行しなければならないという地形であった。このため、平成40年代後半の災害復旧により岡田川を現在の低い位置に付け替えている。しかし、その後も昭和56年8月の台風15号による出水、昭和58年9月の台風10号による出水等、近年では、平成18年7月梅雨前線豪雨、平成22年7月梅雨前線豪雨により浸水被害を受けてきた。また、千曲川合流付近の浸水被害の原因となっていた岡田川樋門の流下能力不足(10m ³ /s → 90m ³ /s)を解消するため、国土交通省では、平成7年より樋門の改築に着手し、平成9年度に完成させているが、樋門閉鎖に伴う内水被害が発生している。		
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	・岡田川の河川改修について、「岡田川改修促進期成同盟会」から毎年要望されている。		
	③事業説明等の経緯	・河川改修事業計画説明会(ニッ柳橋～方田橋)(H24.5.15) ・河川改修事業計画説明会(中条区)(H24.5.17) ・河川改修事業計画説明会(ニッ柳橋～滝沢橋合流部)(H25.11.14) ・信濃川水系長野圏域河川整備計画の策定に係る公聴会の開催(H28.12.21)		
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	・平成8年8月に瀬原田一丁目土地区画整理事業が認可(長野市) ・平成20年6月に信濃川水系河川整備方針が認可(国土交通省北陸地方整備局) ・平成26年1月に信濃川水系河川整備計画が認可(国土交通省北陸地方整備局)		
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	・瀬原田一丁目土地区画整理事業と連携した親水性に配慮した河川整備 ・自然環境に配慮した環境保全型護岸形式の採用 ・低水路整備による生物に配慮した水辺空間の創出		
	⑥地域活性化への影響と配慮	・本事業により、地域の治水安全度が向上し、商業施設の整備や定住化等、地域の活性化が期待される。		
	⑦その他	・排水機場の基礎設計において、経済的な形式となるよう検討予定	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 18' 21" 19 東経:E 36° 33' 37" 42